紙相撲新聞

第161回本場所
初日～三日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

紙相撲70周年の幕開け

千代鈴、大神楽、先場所に続き３連勝
関脇四季嶋、綱乃花ら関脇陣も好調

↑７０周年のメモリアル年の記念すべき千代鈴の横綱土俵入り。太刀持ち西神門、露払い大渡海。紅の三つ揃えが見事だ。

【第百六十一回本場所初日～三日目】

１月１３日に令和６年の幕開けとなる第１６１回本場所初日が開催された。今年は昭和２９年１月に日本紙相撲協会が設立され、第１回本場所が開催されてから７０年の節目にあたる。創設７０周年の記念すべき年は新旧交代の激動の年となりそうだ。

今場所の優勝争いは、先場所終盤で優勝争いから脱落したものの横綱千代鈴が優勝候補筆頭。二番手は先場所準優勝の成績で今場所に横綱昇進を賭ける大関大神楽。横綱昇進は磯ノ海部屋の悲願。もし昇進となれば、紙相撲協会史上初の４横綱となる。

三番手は先場所初優勝を飾り、実力急成長の新関脇西神門といったところだろう。これに加わってきそうなのが、西神門とともに次の大関を狙う四季嶋、綱乃花、鉄甲の関脇陣。

朝日松理事長が「もし４関脇の誰かが優勝したら大関昇進を検討する」との談話を発表し、４関脇も自ずと気合いが入っている。但し、この談話の裏話では、一門の綱乃花を大関に上げるための伏線との噂も。

↓千代鈴は今場所も絶好調。烏帽子、月山と撃破し、三日目も出羽翼を圧倒し、初日から３連勝。先場所の雪辱だ。

また、久し振りに場所前に行われた稽古総見で強さが際だった平幕の鬼ヶ嶽、若佑にも注目が集まっている。

ただ、残念なのは、横綱の若ノ嶋、春ノ翔のベテラン横綱の休場だ。今場所は全休して来場所以降に進退を賭けて出場の見込みとのことだが、若手の台頭もあり、土俵人生を賭ける年となりそうだ。

十両の取組みを３番を残したところで初日恒例の理事長挨拶が行われた。今場所は日本紙相撲協会の記念すべき７０周年の場所、朝日松理事長も気合が入った熱弁が揮われた。

「初日にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

本日ここに令和６年春場所（第１６１回本場所）を開催したところ格も盛大にご来場下さいまして誠に有り難く、深く御礼申し上げます。

今年７０周年を迎える紙相撲協会は粋な大人遊びである紙相撲を通じて皆様に感動をお届け出来るよう努めてまいります。

今場所も新進気鋭、古豪の力士たちは日頃の稽古の成果を余すことなく発揮し、本場所にふさわしい熱戦を繰り広げ、皆様のご期待にお答え出来ることと存じます。

何卒、千穐楽まであたたかいご声援を賜りますようご挨拶と致します。

令和６年１月１３日
日本紙相撲協会理事長
朝日松力丸」

話題尽きない第１６１回本場所だが、三日目まで行われ、横綱千代鈴、大関大神楽、関脇の四季嶋と綱乃花、平幕の鬼ヶ嶽、龍不動、若佑、若柱の８人が３連勝とした。

千代鈴、大神楽はまったく危なげない相撲で順調な滑り出し、千代鈴は烏帽子、月山、出羽翼を、大神楽は月山、出羽翼、夢ノ花を難なく寄り切って３連勝とした。

関脇陣では初日に鉄甲が宇治家に、西神門が白閃光に苦杯を舐めたものの、四季嶋、綱乃花はそれぞれ持ち味を発揮し、二日目、三日目は４人全員が白星を飾った。

このまま４関脇が白星を重ねていくと、優勝争いは大いに盛り上がることだろう。

月　山●（寄り切り）○綱乃花

四季嶋○（寄り切り）●宇治家

喜乃郷●（押し倒し）○西神門

鉄　甲○（寄り切り）●烏帽子

夢ノ花●（寄り切り）○大神楽